

栃木SCとの包括連携協定に基づく基本合意について

令和6年12月17日

スポーツを核とする元気で健康な地域づくり包括連携協定に基づく基本合意 1

スポーツを核とする元気で健康な地域づくり包括連携協定に基づく基本合意

さくら市及び株式会社栃木サッカークラブ（以下「栃木SC」という。）は、令和6年9月26日に締結した「スポーツを核とする元気で健康な地域づくり包括連携協定」に基づき、スポーツの普及や振興、健康づくりの推進、地域活性化の拠点整備に向けて、次の事項を確認し、互いに協力して、その実現に向けた取組みを行うものとする。

1 連携事項と具体的な取り組み内容

(1) スポーツの普及・振興に関すること

今後整備する栃木SC専用グラウンド施設等において、市民を対象としたサッカー教室等を開催し、身体を動かす楽しさやスポーツの魅力を伝えるプログラムを定期的に実施する。

(2) 包括的な健康づくりの推進に関すること

高齢者体操教室等を実施し、誰もが健康で活躍できる社会を構築するため、性別・年齢・障害の有無等に関わらず参加できる運動や健康づくりの機会を提供する。

(3) 未来につながる人材育成や学習機会の創出に関すること

- ① クラブ職員、または専門職スタッフによる学校訪問での講義を開催し、栃木SCが有するノウハウや経験を踏まえた学習プログラムを実施することで、地域社会の将来を担うひとづくりを進める。
- ② 栃木SCのノウハウを活用し、部活動地域移行実証実験にて指導者講習会を実施し、部活動地域移行を見据えた指導者に対するコーチング理論等の展開を図る。
- ③ チームのマネージャー職などを通してプロサッカーチームの現場の業務体験ができる機会を提供する中学生向け職業体験プログラムを実施（年2回程度）する。

(4) さくら市のまちづくりや交流に関すること

- ① 栃木SCホームゲームにおいて、さくら市民デーを開催し市民を招待する。
- ② さくら市内において、公開練習、トレーニングマッチを開催し、来場するファン・サポーターによる交流人口の増加を図る。

(5) 地域経済活性化や環境保全に関すること

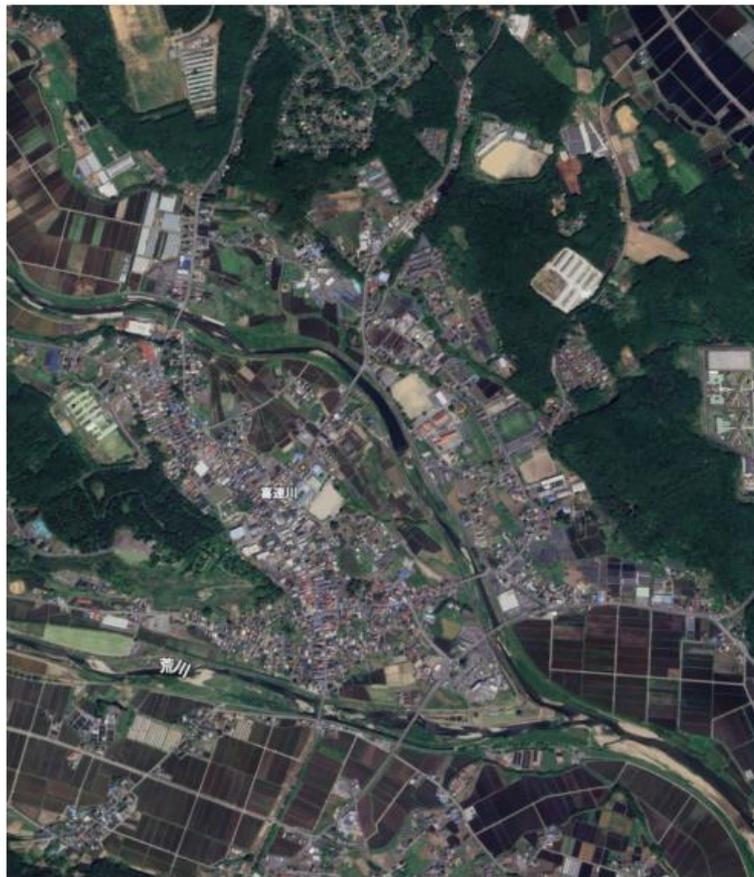
ホームゲームの機会を活用し、本市の観光情報周知啓発活動を実施する。

さくら市と栃木SCの未来

栃木SCはJリーグに加盟し、これまでさくら市から多岐にわたるご支援をいただきながら、サッカーやスポーツを通じた事業に取り組んでまいりました。この深いご縁をさらに発展させるため、栃木SCはトップチームの活動拠点をさくら市へ移転することを検討しております。これは単なる練習場の整備にとどまらず、未来志向の街づくりを推進する取り組みの一環です。また、栃木SCの拠点がさくら市の重要な経営資源および地域資源として機能し、地域の社会課題解決や活性化に貢献できることを目指しております。

活性化と街づくり

Jリーグクラブ基準の練習施設を整備することを契機に、周辺地域での持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。Jリーグクラブが拠点を置き、栃木SCという貴重なコンテンツを活用することで、これまでにない新しいアプローチで街づくりを推進することが可能となります。市民の皆さまの幸せを追求するとともに、子どもたちの未来を育むための環境整備にも貢献していきたいと考えております。



さくら市と共に目指す姿

地域活性化と経済振興

クラブのステークホルダーをはじめとするさまざまな団体や企業と連携し事業を展開することにより、地域経済の発展を目指します。

教育と人材育成

子ども達にさまざまな教育機会を提供し、スポーツを超えた多様な分野での人材育成を目指します。

持続可能な地域作り

スポーツを通じた街づくりに加えSDGsの達成に向けた取り組みや地域課題解決を目指します。

地域コミュニティの強化

スポーツを通じた地域イベントの開催や、地域住民の交流の場を提供することで、コミュニティの強化を図ります。またプロ選手の地域活動により、子どもたちへの影響が増加し、次世代の夢を育む環境づくりを目指します。

シビックプライド醸成

J1昇格という目標に地域と共に取り組むことで市民のシビックプライドの醸成を目指します。



1. スポーツの普及・振興に関すること

サッカーをはじめとしたスポーツを楽しむ機会のさらなる充実を図るため、イベント開催や各種教室、講習会を開催する

主な取り組み

サッカーをはじめとしたスポーツを楽しむ機会の提供
サッカーを通して身体を動かす楽しさやスポーツの魅力を伝えるプログラムを実施。

- (1) 市民を対象とした学校訪問やサッカー教室（地域支援パートナーとして実施中）

2. 包括的な健康作りの推進に関すること

誰もが健康で活躍できる社会を構築するため、性別・年齢・障害の有無等に関わらず参加できる運動や健康づくりの機会を提供する。

主な取り組み

- (1) ウォーキングフットボールの普及
日本サッカー協会が開催するウォーキングフットボール（年1～2回程度）
イベントに対する市からの情報発信等支援
- (2) 高齢者向けの健康づくり・交流の促進
高齢者の健康づくりや交流の促進（地域支援パートナーとして実施中）



連携事項の主な内容

3. 未来につながる人材育成や学習機会の創出に関すること

子どもたちの学びの機会や地域課題解決に向けた人材育成の充実のため、株式会社栃木サッカークラブが有するノウハウや経験を踏まえた学習プログラムを実施することで、地域社会の将来を担うひとづくりを進める。

主な取り組み

- (1) クラブ職員、または専門職スタッフによる学校訪問での講義
 ※プロサッカークラブはどのような職種があり、どのような人達が働いているかを伝えます。働く事の意義や子ども達に夢や目標を考える機会を提供します。また、シーズンによって異なりますが、専門職スタッフが在籍した場合にはそのスタッフによる講習なども実施いたします。
- (2) 中学生向け職業体験プログラム
 チームのマネージャー職などを通してプロサッカーチームの現場の業務体験ができる機会を提供します。
 (2回程度/年 2~3名/1回 2日間/1回)
- (3) 部活動地域移行を見据えた指導者に対するコーチング理論等の研修開催
 株式会社栃木サッカークラブのノウハウを活用し、部活動地域移行実証実験にて指導者講習会を実施
- (4) 株式会社栃木SCが有する各種プログラムを活かした市職員への研修
 市職員の皆さまの業務領域外であるスポーツビジネスの潮流やリーグクラブ経営に触れて頂く機会を提供します。

連携事項の主な内容

4. さくら市のまちづくりや交流に関すること

さくら市で活躍する様々な主体の交流機会の創出による、賑わい向上を進める。

主な取り組み

- (1) 移住の促進に関すること
- (2) 公有地や公共施設の有効活用に関すること
- (3) SDGsの達成関すること

5. 地域経済活性化や環境保全に関すること

経済・環境分野において、両者で活用可能な資源やノウハウを提供し合うことで、取り組み内容の充実を図り、まちや施設の魅力を高める。

主な取り組み

- (1) ホームゲームの機会を活用した本市の観光情報周知啓発活動
- (2) クラブのステークホルダーをはじめとする様々な団体や企業と連携した事業の展開
- (3) 交流人口の増加

気候変動への適応意識の醸成

気温や湿度が高い日の運動は、熱中症に対して十分に注意する必要があるため、安全にスポーツを楽しむための熱中症対策を啓発

主な取り組み

- (1) 毎年6月頃、熱中症対策セミナーを開催予定
- (2) 市の広報媒体を用いて、株式会社栃木サッカークラブの熱中症対策に関する講習を周知予定



2 地域活性化の拠点整備

スポーツの普及や振興、健康づくりの推進、地域活性化の拠点の一つとして、双方協力して栃木SCの練習拠点施設の整備を進める。

3 練習拠点施設の整備

(1) グラウンド施設整備

グラウンド施設整備は、栃木SCが、喜連川運動場を候補地として整備を進める。

(2) クラブハウス施設整備

クラブハウス施設整備は、さくら市及び栃木SCが協力してグラウンド施設に近接するエリアを候補地として整備を進める。

(3) グラウンド施設及びクラブハウス施設の周辺施設整備

さくら市は、グラウンド施設及びクラブハウス施設の周辺施設等について整備を進める。

4 企業版ふるさと納税制度等の活用

さくら市は、施設整備に当たり、企業版ふるさと納税制度等を活用し、栃木SCを支援する。

5 事業内容

事業内容の詳細は、今後、さくら市と栃木SCで内容を協議し協定を締結する。

令和6年12月17日

練習環境の移転整備による効果

栃木SCの練習グラウンドとクラブハウスの移転整備による効果

- ▶ さくら市と栃木SCが共に取り組むことで市民のシビックプライドの醸成を目指すことができる。
- ▶ 市内小中学校の学校訪問・サッカー教室、部活動地域移行を見据えた指導者に対する研修開催など子ども達にさまざまな教育機会を提供し、高齢者体操教室など、スポーツを超えた多様な分野での人材育成を目指すことができる。

交流人口創出効果など

- ▶ 栃木SCのトップチームの公開練習、トレーニングマッチを行なうことで、近隣よりファン・サポーターを呼ぶことができる。
- ▶ ファン・サポーターの「市営露天風呂」、「道の駅きつれがわ」や飲食店、商店の利用が期待できる。
- ▶ ファン・サポーターが周辺のSAKURAグリーンフィールド、喜連川高校跡地体育館、B&Gプール、テニスコートを知ること、他の施設の活用と更なる交流人口の増加が期待できる。

経済効果

- ▶ 公開練習、トレーニングマッチ開催によるファン・サポーターの消費がもたらす地域の経済波及効果
- ▶ 選手やチームスタッフの消費がもたらす地域の経済波及効果
- ▶ サッカー用具の購入など関連する個人消費の増加がもたらす地域の経済波及効果
- ▶ 栃木SCとともにさくら市に関する情報がメディア等に取り上げられることでもたらされる広告効果

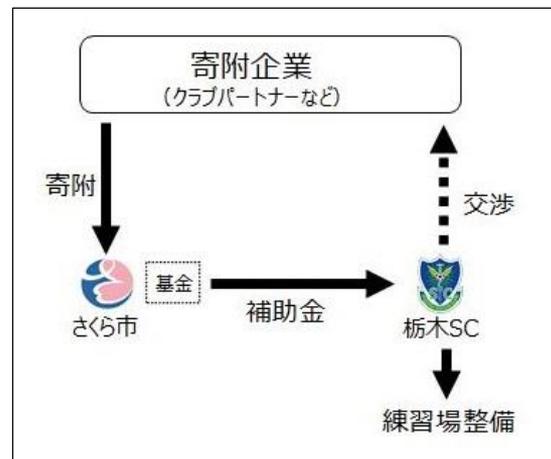
地域活性化の拠点整備

グラウンド施設整備の検討状況

- 栃木SCが喜連川運動場を貸借し、天然芝練習グラウンドを整備
- 整備費は栃木SCが“**企業版ふるさと納税**”で調達(※下図参照)
- 原則、栃木SC専用として使用し、維持管理は同クラブが行う。
- 喜連川運動場の使用団体（サッカーチーム）への代替施設を提供



① 天然芝グラウンド整備イメージ



② グラウンド整備資金(企業版ふるさと納税)の流れ

地域活性化の拠点整備

クラブハウス施設整備の検討状況

- Jクラブの拠点には、練習グラウンドに隣接する“クラブハウス”が必須
- 栃木SCはグラウンド整備に合わせクラブハウスを整備し、チーム強化のため他クラブに劣らない環境整備を希望
- さくら市及び栃木SCが協力してグラウンド施設に近接するエリアを候補地として整備を進める。
- クラブハウス整備に伴い喜連川保健センター、B&Gプール等資源の有効活用を検討



①グラウンド隣接に整備する場合のイメージ



②喜連川運動場と喜連川保健センターの位置

栃木SC練習拠点周辺施設整備案

